

令和7年度自己評価シート(当初)

学校名 三次市立三次中学校

【経営理念】

ミッション(使命)：「生徒の進路選択の幅の拡大と希望進路の実現」を図り、持続可能な地域を形成する人材を育成する。

学校教育目標：自律と貢献の志を持ち、主体的に進路を選択する生徒の育成

～一所懸命が好き！ 夢と志を持ち 輝く私たち～

達成度	達成値 目標値	$\times 100$	評価	A≥100
				80≤B<100
				60≤C<80
				D<60

中期経営目標

短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	目標値	評価	達成状況	担当部等	
1 学力の定着・向上							
確かな学力の育成	基礎学力の定着・向上	①市立三次中授業スタイル(SMP)を基盤とした学習者基点の授業研究の実施、研究成果を各教科へ広げる取組 ②学力調査、定期試験を目標、検証軸とした短期PDCAサイクルによる取組 ・課題把握に基づく具体的目標設定と取組 ③課題発見・解決過程のある単元づくりの推進	・定期試験における知識・技能、思考・判断・表現の観点達成率 ・市学力検査(平均正答率と30%未満生徒の割合)	各教科の知識・技能60%以上、思考・判断・表現力50%以上 実施教科全てで経年比較において前年度を超える、30%未満生徒のべき7%	B	一学期末：知識・技能8/15、思考・判断・表現10/15 二学期中間：知識・技能3/15、思考・判断・表現7/15 学力検査は未実施	教務部
	育成すべき資質・能力の向上	①特に育成を目指す資質・能力(「3つの力」)の継続的な育成・向上 ・育成すべき資質・能力を、生徒教職員が共有した 各教科・領域・行事等への取組 ・各教科・領域・行事等への取組における変容の検証 ②各種検定、コンクールへの応募・挑戦 ・各種検定(漢検・数検・英検等)やコンクール等への挑戦 ・計画的なコンクールへの応募	・自校の質問紙「3つの力アンケート」 ・総合質問紙調査(コミュニケーション能力・協調性・主体性) ・各種検定受検生徒の割合	肯定的評価80%以上 3つの資質・能力にかかる項目、全国平均以上 延べ受検率50%以上	C	「3つのアンケート」：6項目すべてにおいて80%以上(6月実施) 総合質問紙調査：全国平均と比べて主体性は+0.8、協調性-11.6、コミュニケーション能力-4.9 各種検定受検者数：漢字検定12名、英語検定28名、数学検定は9名受験予定	

【評価結果の分析】

定期試験における観点の達成率は、知識・技能は目標を達成していないが、思考力・判断力・表現力においては目標をほぼ達成することができた。ただし一学期期末試験と二学期中間試験を比較してみると二学期中間試験の知識・技能の定着率が悪く、特に1・2年生の定着率が目標値に達成していない傾向にある。1年生については一学期よりも学習内容が難しくなっていること、2年生においては修学旅行等行事があり、学習面に真剣に向かうことができていない生徒も多かったのではないかと推測される。また全学年を通して、学習習慣が身についていないことが考えられ、基礎的・基本的な知識の定着が薄いと考えられる。ただし3年生については、夏休みで部活動を引退し受検を意識し学習を計画的に取り組もうとする生徒も増え始めた。その結果、10月に実施した実力テストでは、社会・英語を除く3教科で全国平均を上回った。

【今後の改善方策】

引き続き各教科での授業改善を行っていく。学力差が大きく2極化していること、学習意欲にも差が出ていることから一斉指導が難しい現状もあり、習熟度別学習や自由進度学習等授業形態や進め方をどの授業においても取り入れていく必要になる。

2 社会性、自己認識の向上

豊かな心の育成	生徒指導諸問題の未然防止	①生徒指導規程の周知徹底と一貫指導 •生徒指導規程の全家庭への配布、学校総会等での説明 •生徒指導規程をもとにした全教職員での統一的な生徒対応(特別な指導を含む) ②生徒理解と即時の組織的な対応 •教育相談委員会、生徒指導部会の定例化 •スクールカウンセラーの積極的な活用 •各学期における教育相談ウィーク及び生徒・保護者アンケートの実施 •全職員による校内巡回及び生徒への肯定的な声かけ	・問題行動の状況と対応(前年度比較)	昨年度以下	B	•いじめ認知6件(昨年度、同時期2件) •不登校生徒数4名(昨年度、同時期6名) 問題行動20件(教師暴力1件、生徒間暴力11件、いじめ6件、携帯電話に関するもの2件)(昨年同時期6件)	生徒指導部
			・不登校生徒数	昨年度以下			
			・諸問題認知解決指導100%	100%			
豊かな心の育成	生徒会活動の活性化	①日常的な委員会活動の充実 •「みよしち子あいさつ運動」の実施 •生徒会各委員会から2項目以上の企画提案 •生徒会執行部会の定例化(週1回) •部活動部長会の定例化(月1回) ②人間磨きの場としての部活動、放課後活動 •指導者の積極的参加と指導 •生徒が自ら考え実行、反省できる活動	・委員会活動実施状況(各委員会からの企画、実施)	各委員会1回以上	B	•各委員会の取組 ①学級委員会→あいさつ運動 ②生活委員会→あいさつ運動・服装点検 ③ボランティア委員会→ペントボトルキャップ集め、ベルマーク集め、花の植え替えボランティア企画 ④図書委員会→本の貸出、本の紹介放送・掲示 ⑤美化委員会→掃除放送、用具チェック ⑥体育委員会→昼休憩ボール貸出、全校レク企画 ⑦文化委員会→給食放送 •「生徒会活動・学行事への取組」肯定的評価84.6% •総合質問紙調査各項目の肯定的評価 •計画性54.9% •目標設定84.4% •自己認識67.7% •社会性74.1%	生徒指導部
			・生徒満足度	肯定的評価80%以上			
			・総合質問紙調査(計画性・目標設定、自己認識・社会性)	各項目80%以上			

【評価結果の分析】

- ・生徒指導上の諸課題については、11件の生徒間暴力が発生した。特定の生徒が何度も繰り返す状況でお互いのコミュニケーションの取り方が起因しており、暴力は絶対にいけないということと共に相手の気持ちを考えた行動をとることを継続して指導している。休憩時間の各フロアの見回りや、継続して本人や全体に指導を行うことで、他の生徒指導上の諸課題の未然防止に努めていく。
- ・不登校については昨年度に比べ減少している。内訳は2年生1名、3年生3名であり、すべて昨年度から継続している状況である。また長期欠席の生徒も一定数いると共に保護者との連携が円滑に図れないケースもある。
- ・いじめについては、暴力行為の発端となつたいじめを積極的に認知した。保護者を含めて指導を行うと共に、今後も指導を継続していく必要がある。
- ・生徒会活動については、各委員会でオリジナルの企画を立てたり、行事に向けて意欲的に取り組んだりしている。しかし、取組について生徒全体に周知できていない場面が見られ、さらに生徒会全体で取り組んでいくことで効果が発揮されると思われる。

【今後の改善方策】

- ・生徒指導の諸課題においては、今後も各フロアの見回りや定期的な教育相談等で生徒の様子を把握すると共に、些細な変化についても見逃さないようにしていく。また思いやりの気持ちや相手の立場に立って考える力を育成するため、道徳の授業の充実や行事・日々の授業・部活動等の取組をさらに発展していくよう意識し、取り組みを行う。
- ・不登校生徒および長期欠席の生徒については、学年会が中心となって家庭訪問等を行っているが、校務運営委員会で情報交換を定期的に行い、必要に応じて個別のケース会議を開きながら組織的に取り組んでいく。
- ・いじめ認知については、2・3学期も定期的なアンケートを実施し、生徒全員の面談を実施していく。また生徒の些細な変化を見逃さないように、教員間で連携を密に図り組んでいく。
- ・生徒会活動を充実させるために、これまで通り執行部会を定期的に開催していく。また、学校行事等でも生徒会を中心に生徒が自主的・主体的に活動できる場面を設け、生徒の自己肯定感や自己有用感の育成に努めていく。

3 自立的な生活習慣の定着と体力の向上

健 や か な 体 の 育 成	基本的生活習慣の充実	① 生活づくり週間の取組の実施 ・定期試験期間中に生活づくり週間の取組を行う。(起床時刻、就寝時刻、学習開始時刻の三点と、学習時間、メディア利用時間、朝ごはん摂取) ②①の結果について資料を作成し、保護者啓発を行う。 ③みよし学園健康教育部会の取組を三次中学校区で共通して実施する。	三点固定が定着した生徒の割合(生活アンケート)	70%以上	B	みよし学園健康教育部会で生活リズムの確立についての資料を作成し配布し指導を行っている。「三点固定の定着」 79.2% 「メディア利用時間の短縮に努めている」46.8%	健康安全部
		メディアコントロール実施達成率(生活アンケート)	肯定的評価 60%以上				
健 や か な 体 の 育 成	健康安全意識と体力の向上	①体力つくりの工夫・充実 ○保健体育の授業における工夫・充実 ・主運動と関連付いた体つくり運動の計画的実践 ・新体力テストのフィードバックと個々の体力に応じた運動プログラムづくり ○運動部活動における体力つくり ②安全教育の工夫・充実 ・委員会等を活用したけがの予防に係る安全指導	・体力・運動能力調査(国・県平均以上の生徒割合)	B評価以上の生徒が50%以上	A	4月に実施した体力・運動能力調査の結果(B評価以上の生徒の割合): 44.4% 男子 26.1% 女子 62.7% スポーツ振興センター災害共済利用件数(9月末現在) 8件 (R5年度15件 R6年度13件)	健康安全部
		・スポーツ振興センター災害共済利用割合	前年度比+10%以内				

【評価結果の分析】

- 児童生徒期に基本的生活習慣を確立することの大切さについて、学区で資料を作成、配布した。また、健康づくりへの意識向上を目指し、「健康俳句」を児童生徒保護者へ募集し、生活リズムの確立などについての啓発を行った。児童生徒から多数の応募があった。作品数点は、2学期の生活づくり週間で全家庭に配布する「三角コーン」に掲載する。
- メディア利用時間が長くなっている傾向が見られるが、テスト期間については「スマホを見る時間を減らした」という振り返りの意見も見られた。
- 9月末までのスポーツ振興センター災害給付金の対象件数は8件。ここ2年減少傾向にある。
体育や部活動(運動)での負傷が主。学校施設の不備も要因となった事故については、早急に修理修繕を行った。
- 体力・運動能力調査において、全体での総合評価B以上の生徒の割合は、44.4%であり目標値に達していない。男女別でみると全学年女子が62.7%、全学年男子が26.1%であり、昨年度に比べ女子の割合が下がり、男子の割合が上がってはいるが、全体的には女子の体力の方が高い傾向にある。
- 昨年度より新体力テストの結果をもとにトレーニング計画を立案し、部活動や家庭でのトレーニングにつなげたり、体育の授業において学年別・男女別の課題を把握した上で、それぞれの課題に応じた体力を高める運動(体育の授業初めに主運動と関連付けた運動)を継続的に実施したりしており、計画的・継続的な体力づくりにつながっている。

【今後の改善方策】

- 11月にも小中学校で生活リズムアンケートを実施する。その結果を踏まえて、継続して指導を行う。
- スマホ等のメディア機器の視聴や利用方法については、各家庭での指導見守り等が不可欠。PTAと連携しながら取組を進めていく。
- 全学年男子の体力が低い傾向であるため、体育理論で自己の体力を分析し、体力づくり計画を作成させているので、11月に再測定を行い、中間評価を行う。
- 今年度より1・2年生は男女共修で授業を行っている。共修の中でも体力差や課題に応じた取組を行うことで体力向上につなげるとともに、運動の楽しさを実感できるような指導の工夫を行い、日常生活において自ら運動に親しむことのできる態度を育っていく。

4 学校・家庭・地域が連携した「魅力ある学校づくり」の推進

信頼される学校	小中一貫教育の充実	<p>①校区を教材化した、まちガイド実施を柱とした教育課程の展開 ②小学校と連携した児童生徒交流活動の計画実施</p>	<p>・オリジナルカリキュラムの生徒・教職員満足度</p> <p>・オリジナルカリキュラム実施率(まちガイド展開プログラム)</p>	<p>70%</p> <p>全学年実施</p>	<p>A</p> <p>全学年で総合的な学習の時間で、地域の方々を講師に迎えて地域を教材化した学習を行った。 「学校生活は楽しい」生徒 95.5% ・小中学校合同のあいさつ運動や一斉ボランティア清掃活動を行うことができた。 「ペアやグループ活動に積極的だ」生徒 88.2%</p>	総務部
	学校への満足度・信頼度の向上	<p>①学校、学年(学級)、保健、生徒指導等の各種通信の計画発刊とホームページ更新 ・月1回以上 ②各種メディアを通じた積極的情報発信 ③学校運営協議会を核とした日常的な連携</p>	<p>・本校に入学してよかったですと思う生徒・保護者の割合</p> <p>・保護者・地域関係者の学校支援活動参加数</p>	<p>90%</p> <p>保護者数のべ 70%以上</p>	<p>A</p> <p>・「本校に入学してよかったです」 学校生活アンケート生徒 97.3% 保護者 92.6% ・1学期に行った授業参観日は、72.7%の保護者の参加があった。</p>	総務部

【評価結果の分析】

- ・みよし学園(小中一貫事業)における交流活動として、合同のあいさつ運動や、一斉ボランティア清掃活動を保護者や地域の方々と共に実施することができた。
- ・コミュニティ・スクールにおいての地域との連携を活かし、総合的な学習を中心に地域の方々を講師に迎えての活動を積極的に行えている。
- ・「本校に入学してよかったです」と回答した生徒は中間評価(97.3%)であった。また、保護者の中間評価(92.6%)と高い水準を保っている。
- ・各種通信やtotoruによる情報発信は月1回以上実施している。ホームページ更新も定期的に更新している。

【今後の改善方策】

- ・今後も、保護者、地域からの学校教育活動に対する支援を頂けるよう、各種通信やメディアを通じた情報発信を続け、学校への満足度・信頼度の向上を図る。